



決算説明会

2008年3月期中間期

2007年10月31日

ミネベア株式会社

1. 業績の説明

2. 方針と戦略

業績の説明

取締役 専務執行役員 加藤木 洋治

連結業績ハイライト

タイパーツ高や、1QでのHDDメーカー在庫調整による関連製品の落ち込みがあったものの、HDD市場の回復、全社的な合理化努力により、売上高、利益とも増加

(百万円)	2007年3月期	2008年3月期	前年同期比 伸び率	2008年3月期 中間期	
	中間期	中間期		期初計画	達成率
売上高	163,998	168,247	+2.6%	162,500	103.5%
営業利益	13,367	15,121	+13.1%	14,000	108.0%
機械加工品	13,317	13,704	+2.9%	13,800	99.3%
電子機器	50	1,417	28.3倍	200	7.1倍
経常利益	10,947	13,236	+20.9%	11,500	115.1%
税引前利益	11,114	12,196	+9.7%	10,500	116.2%
純利益	7,468	7,474	+0.1%	6,500	115.0%
一株当たり(中間) 純利益(円)	18.72	18.73	+0.1%	16.29	115.0%

為替レートの変動 07/3期1H → 08/3期1H
 US\$ 115.26円 → 119.64円、ユーロ 145.58円 → 161.83円
 タイパーツ 3.03円 → 3.77円(3.47円)、人民元 14.40円 → 15.68円
 但し、カッコ内は、タイ中央銀行発表のオンショア・レート

四半期業績

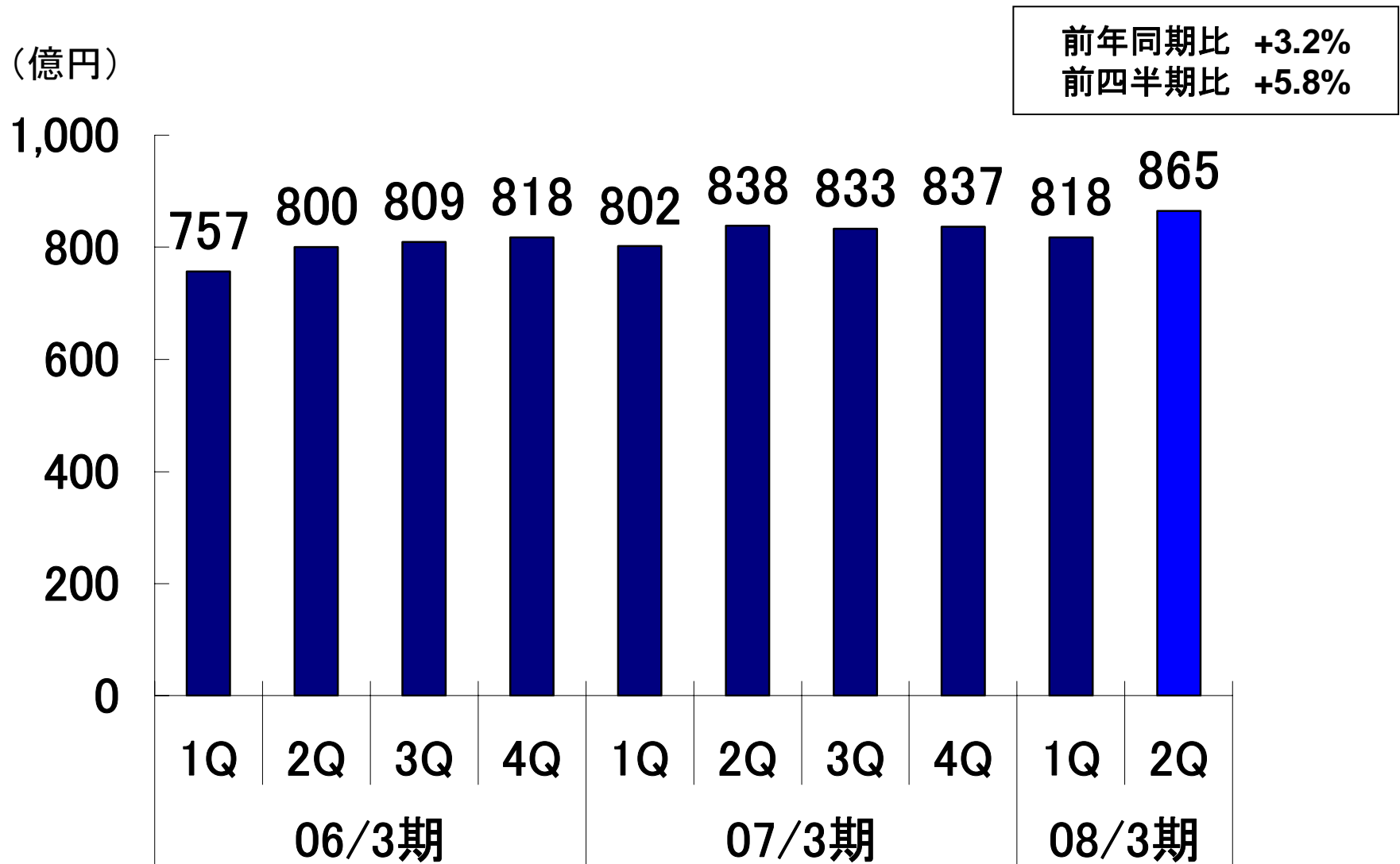
引き続きタイパーツ高などの影響はあるものの、HDD市場の回復による
関連製品の好調、全社的な合理化努力により、売上高、利益とも増加

(百万円)	2007年3月期	2008年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	2Q	1Q	2Q		
売上高	83,797	81,766	86,481	+3.2%	+5.8%
営業利益	7,509	7,115	8,006	+6.6%	+12.5%
経常利益	6,234	6,252	6,984	+12.0%	+11.7%
税引前利益	5,909	5,476	6,720	+13.7%	+22.7%
当期純利益	4,180	3,133	4,341	+3.9%	+38.6%
一株当たり(当期) 純利益(円)	10.48	7.85	10.88	+3.9%	+38.6%

為替レートの変動 07/3期2Q → 08/3期2Q
 US\$ 115.80円 → 119.42円、ユーロ 147.67円 → 162.43円
 タイパーツ 3.05円 → 3.84円(3.49円)、人民元 14.49円 → 15.80円
 但し、カッコ内は、タイ中央銀行発表のオンショア・レート

四半期推移

売上高



四半期推移

営業利益

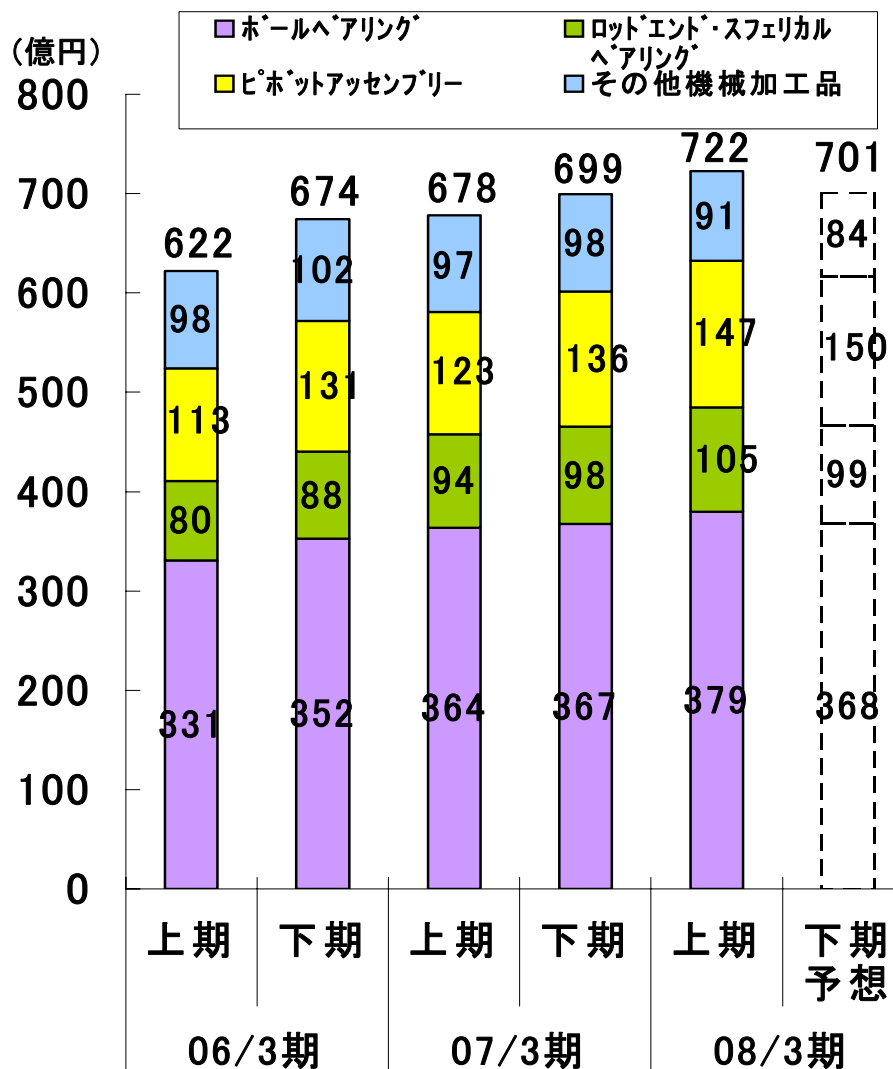
前年同期比 + 6.6%
前四半期比 +12.5%



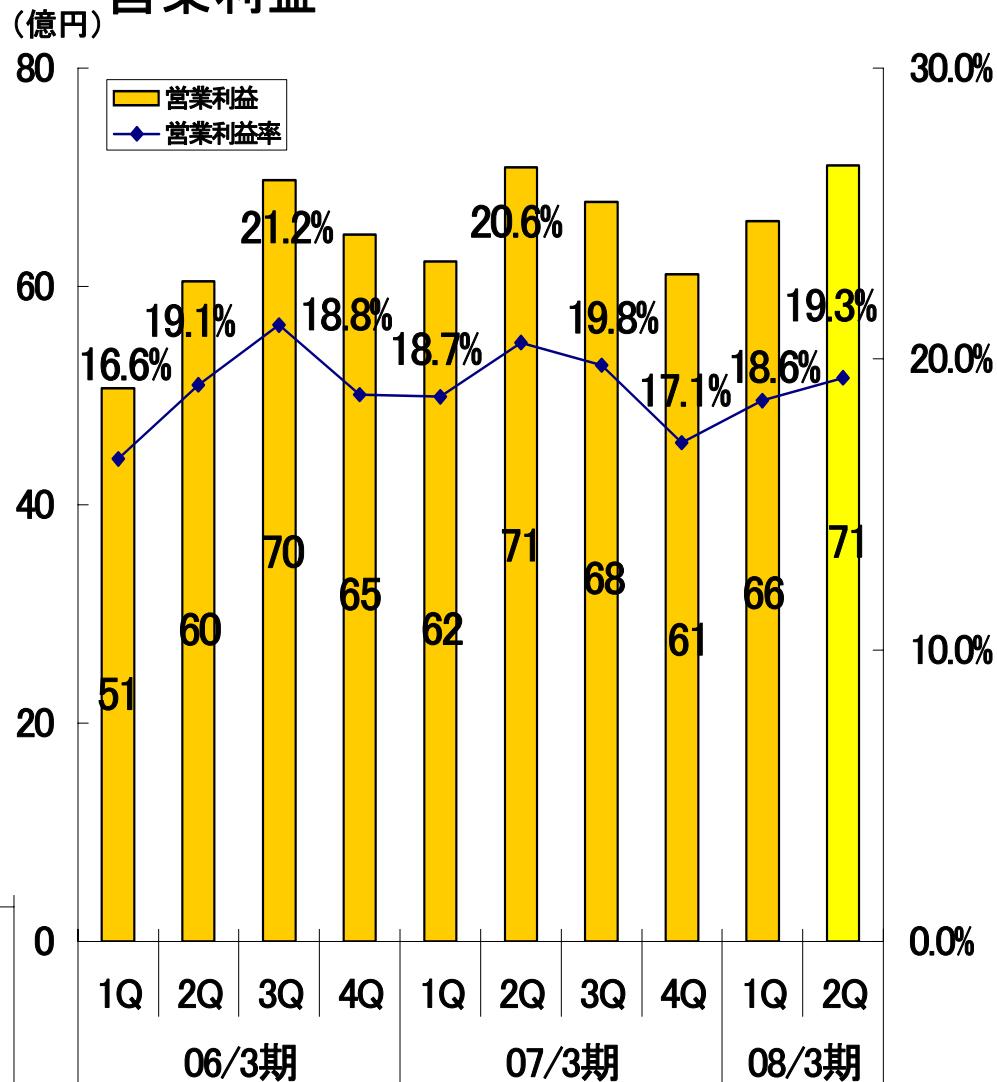
為替レートの変動 08/3期1Q → 08/3期2Q
 US\$ 119.85円 → 119.42円、ユーロ 161.22円 → 162.43円
 タイバーツ 3.70円(3.44円) → 3.84円(3.49円)、人民元 15.55円 → 15.80円
 但し、カッコ内は、タイ中央銀行発表のオンショア・レート

セグメント別 機械加工品事業 売上高・営業利益

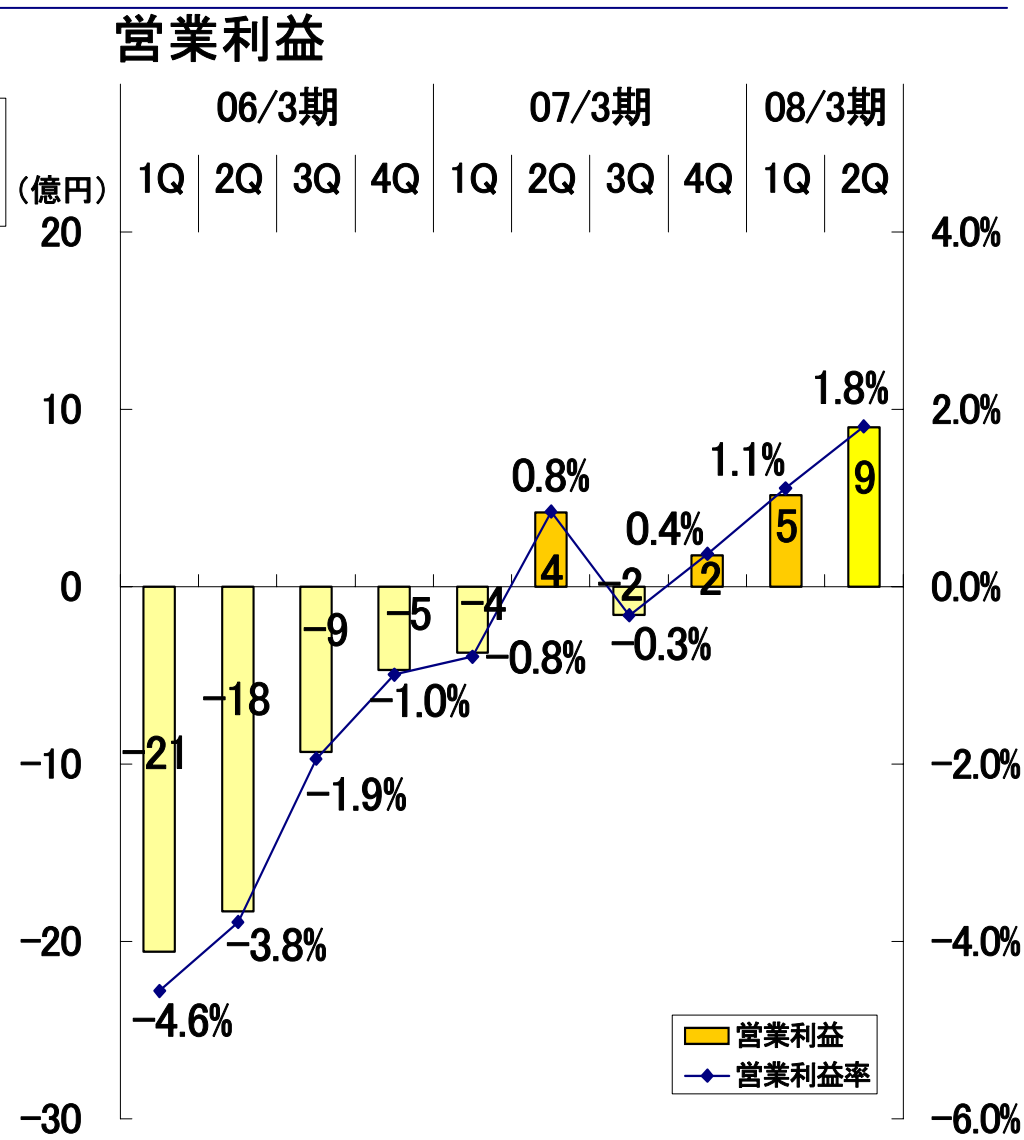
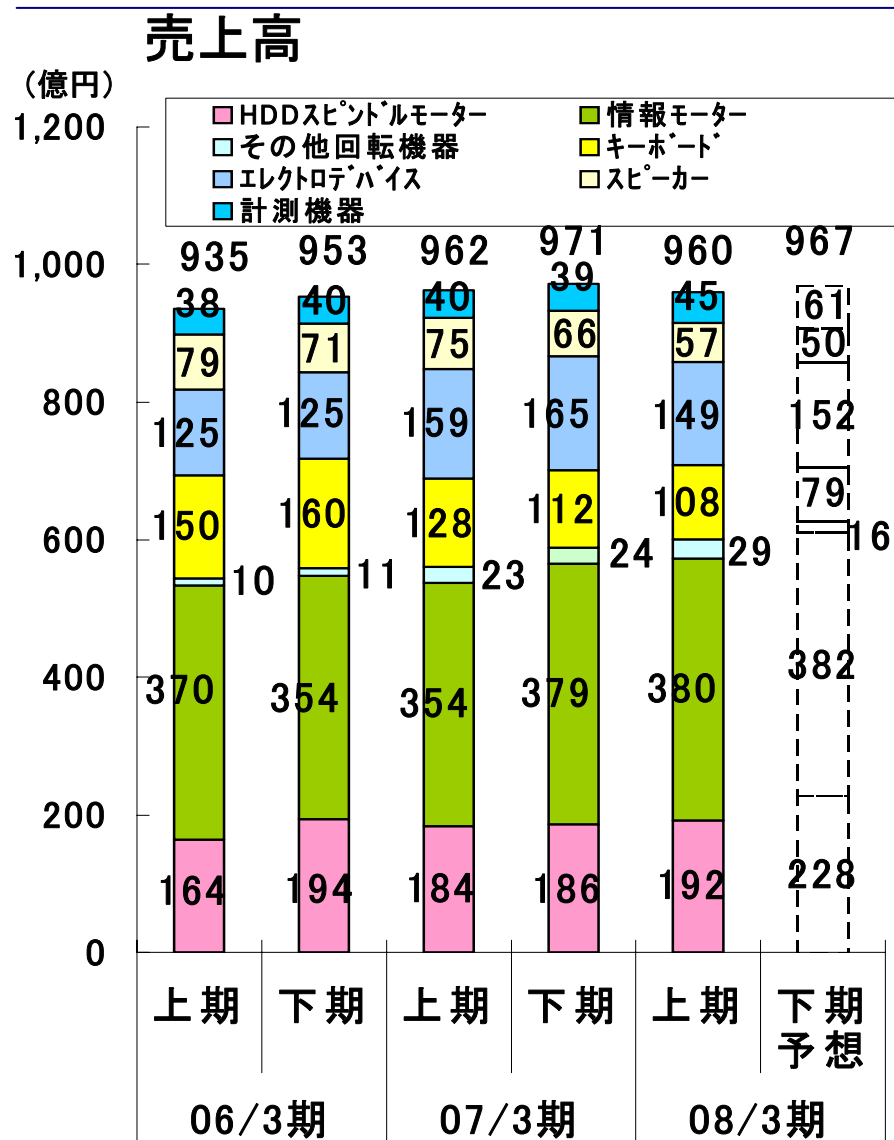
売上高



営業利益

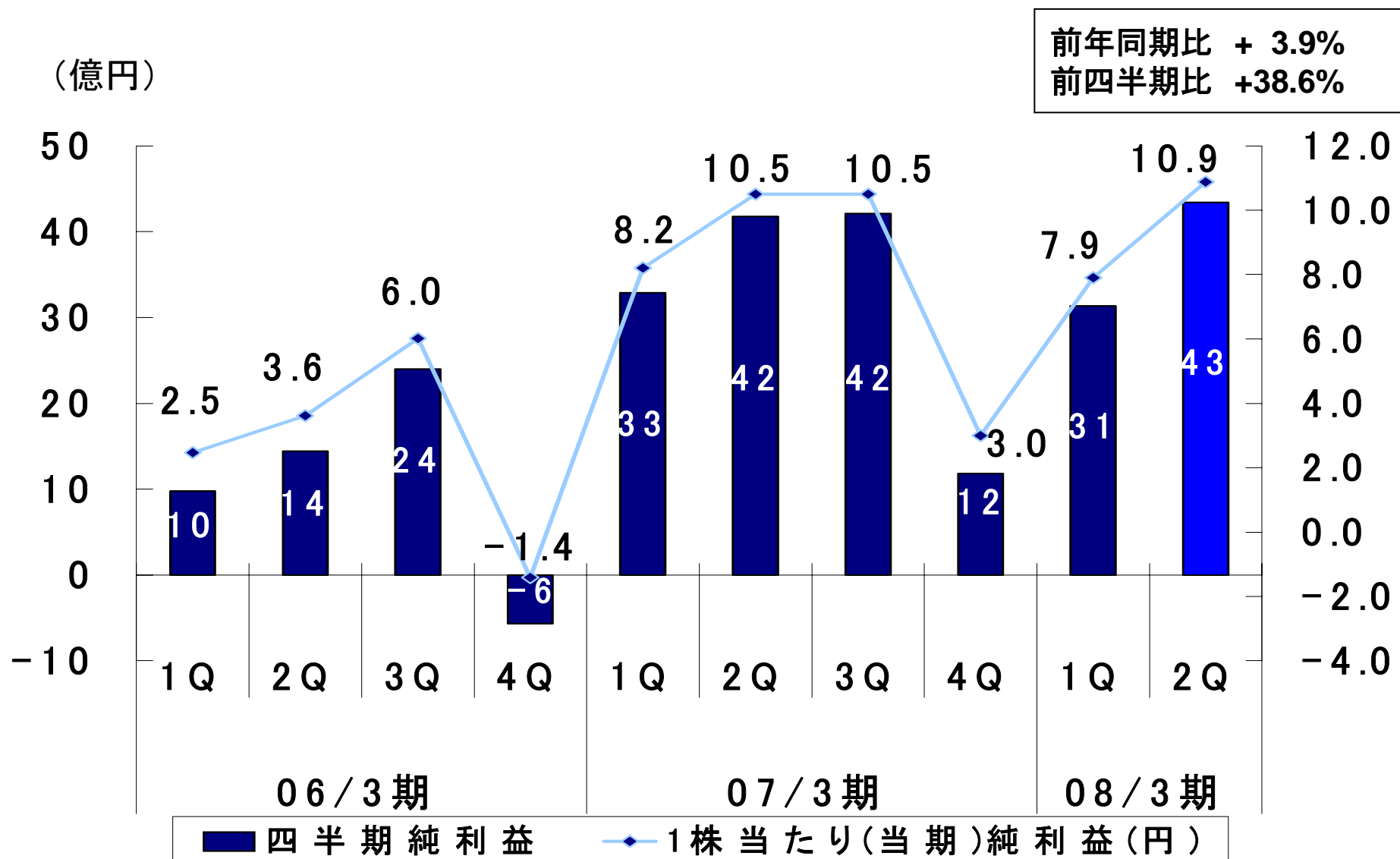


セグメント別 電子機器事業 売上高・営業利益



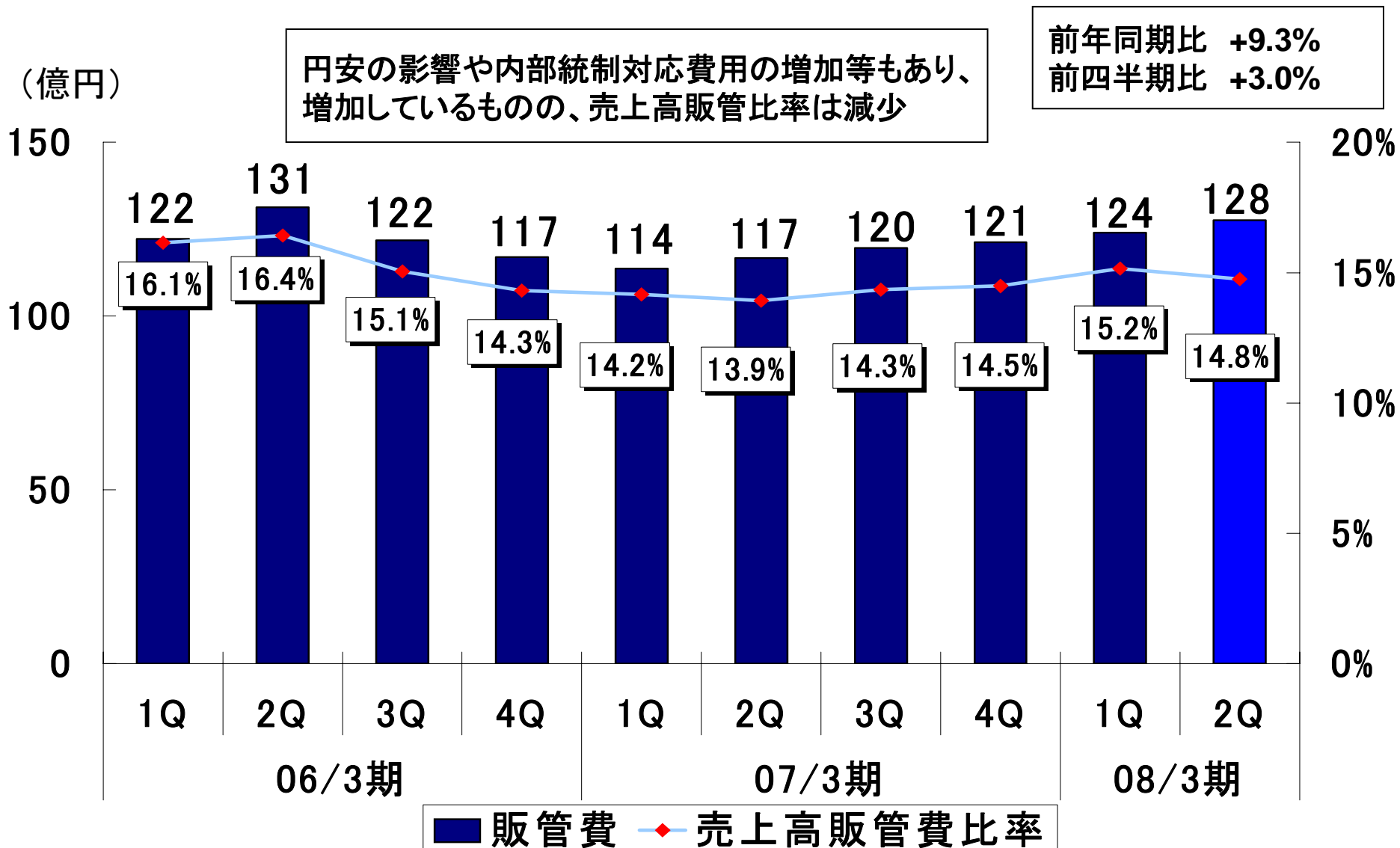
四半期推移

当期純利益



四半期推移

販管費

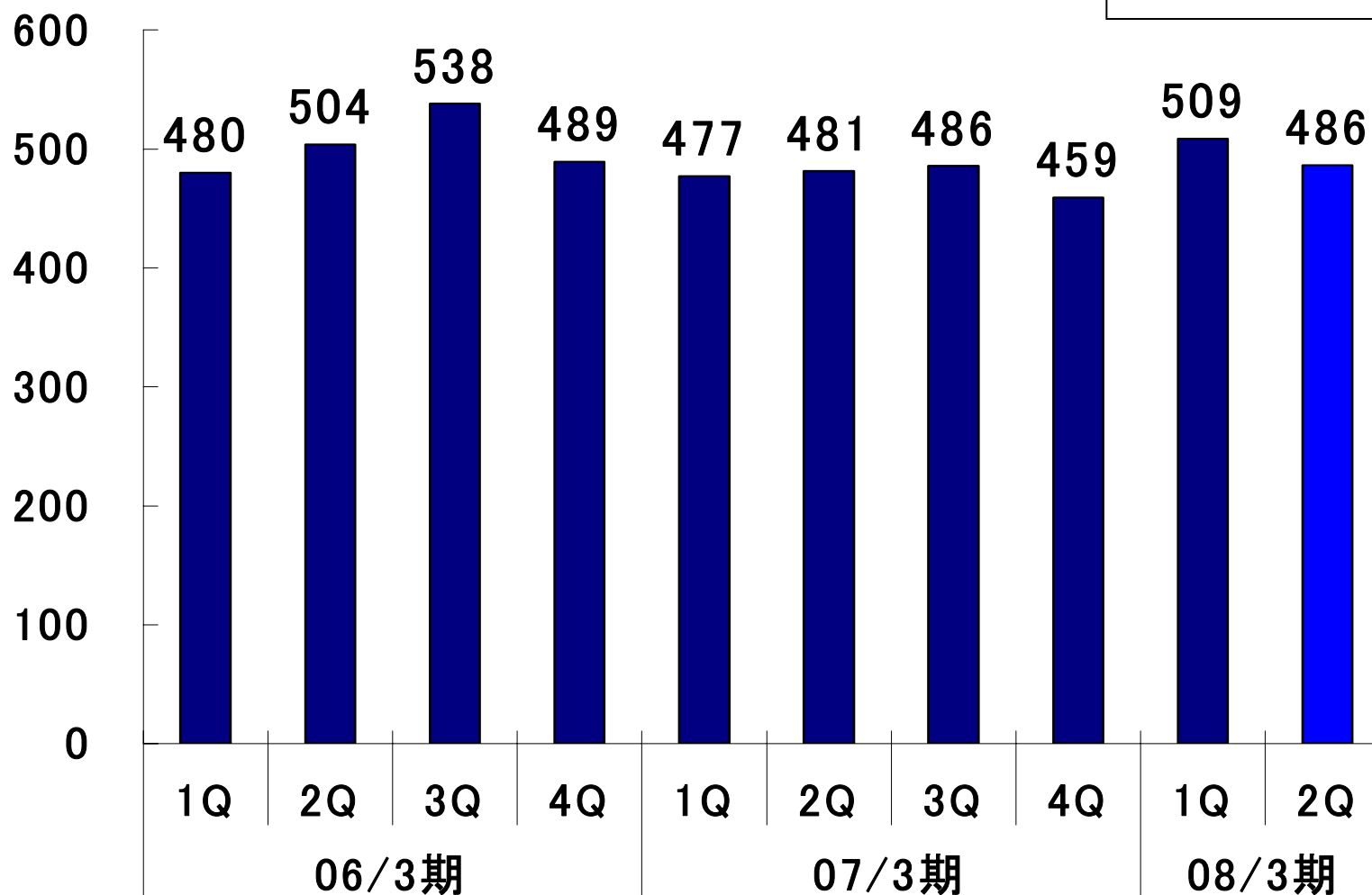


四半期推移

たな卸資産

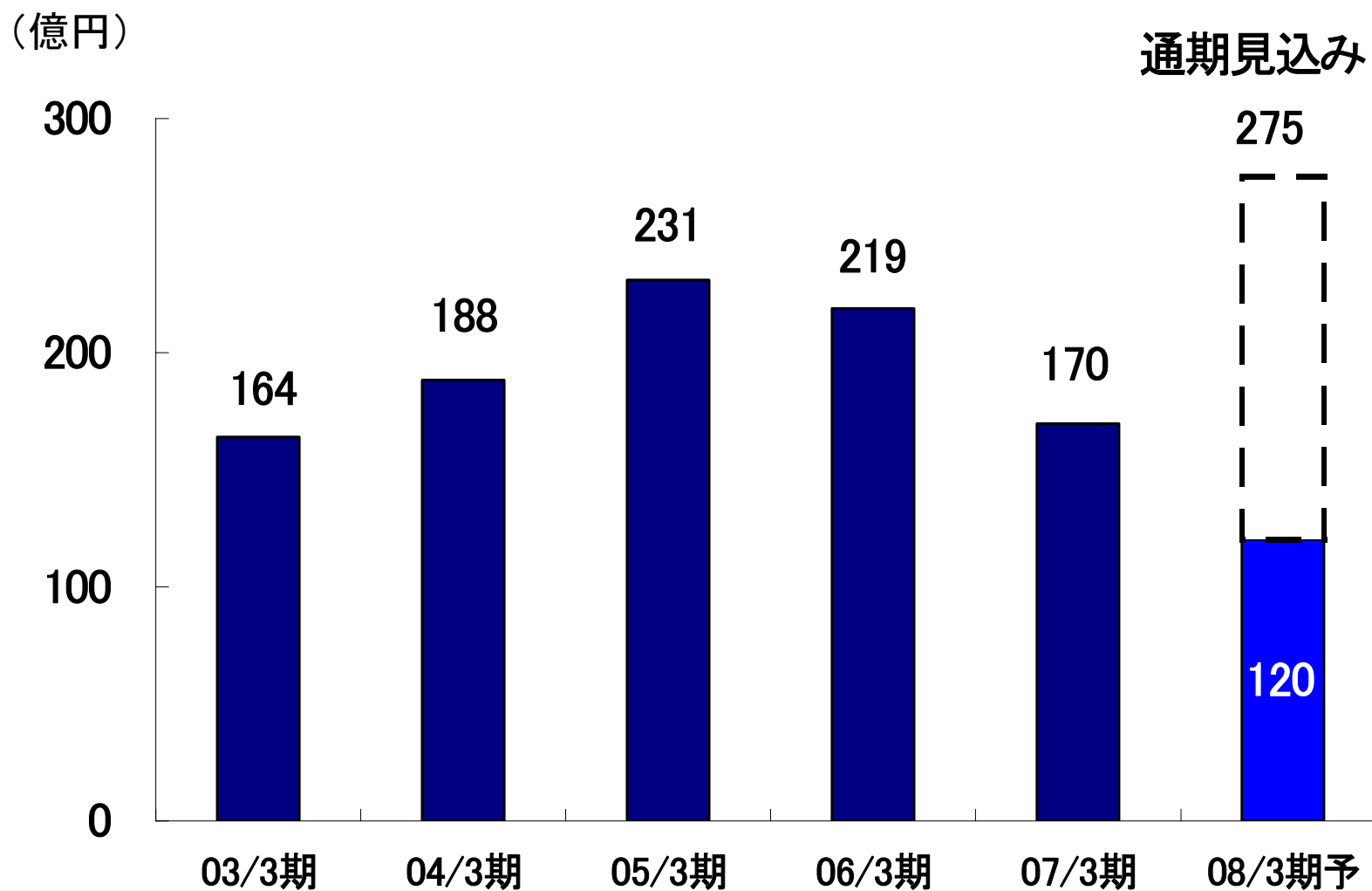
(億円)

前年同期比 +1.1%
前四半期比 -4.4%



年推移

設備投資額



通期業績予想

通期予想は変更しません

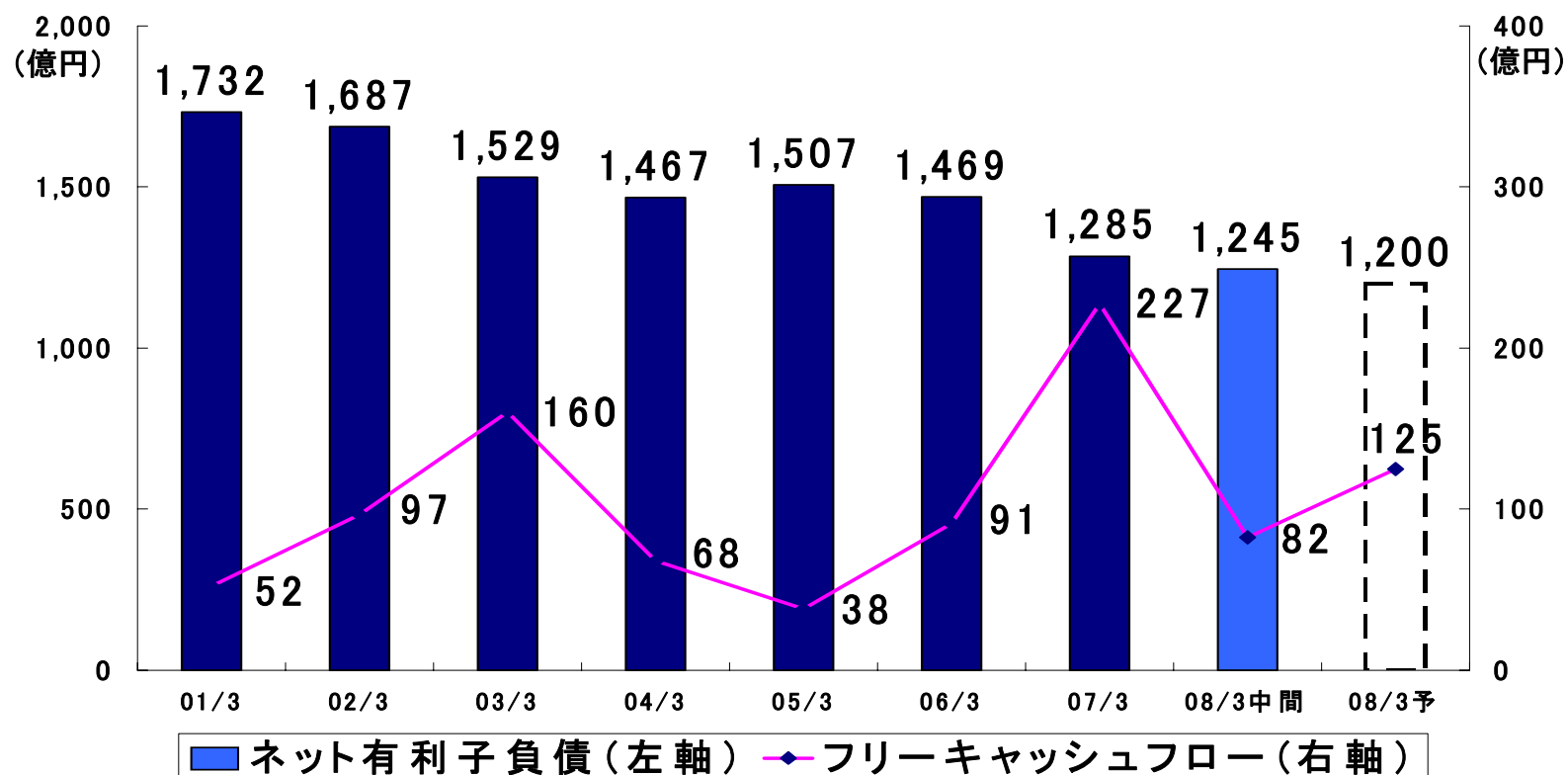
(百万円)	2007年3月期	2008年3月期修正予想			前年比
	通期	上期実績	下期予想	通期予想	伸び率
売上高	331,022	168,247	166,753	335,000	+1.2%
営業利益	26,265	15,121	14,879	30,000	+14.2%
経常利益	21,843	13,236	11,764	25,000	+14.5%
税引前利益	19,523	12,196	11,304	23,500	+20.4%
(当期)純利益	12,862	7,474	7,526	15,000	+16.6%
一株当たり(当期) 純利益(円)	32.23	18.73	18.86	37.59	+16.6%

為替レート的前提 07/3期実績 → 08/3期想定
 US\$ 116.91円 → 117.96円、ユーロ 149.75円 → 159.77円
 タイパーツ 3.18円 → 3.69円、人民元 14.77円 → 15.48円

財務戦略：有利子負債削減

◆ ネット有利子負債削減

- ・中期目標である10年3月期1,000億円水準への削減を目指す
- ・08年3月期中間は40億円削減。下期更に45億円削減し、1,200億円目標



ネット有利子負債：有利子負債合計－現預金
 フリーキャッシュフロー：営業活動CF＋投資活動CF

方針と戦略

代表取締役 社長執行役員 山岸 孝行

将来に向けて

中期事業計画の策定

(単位: 億円)

	62期 (2008.3期)	63期 (2009.3期)	64期 (2010.3期)
売上高	3,350	3,500	3,700
営業利益	300	340	380
税前利益	235	260	300

売上5,000億円企業
を目指して

持続的成長

基盤強化
赤字縮小

構造改革

2006.3期

拡大態勢
黒字転換

負の駆逐

2007.3期

事業拡大
利益増大

前進

2008.3期

富の創出
技術の進化

進歩

2009.3期

更なる拡大
利益最大化

飛躍

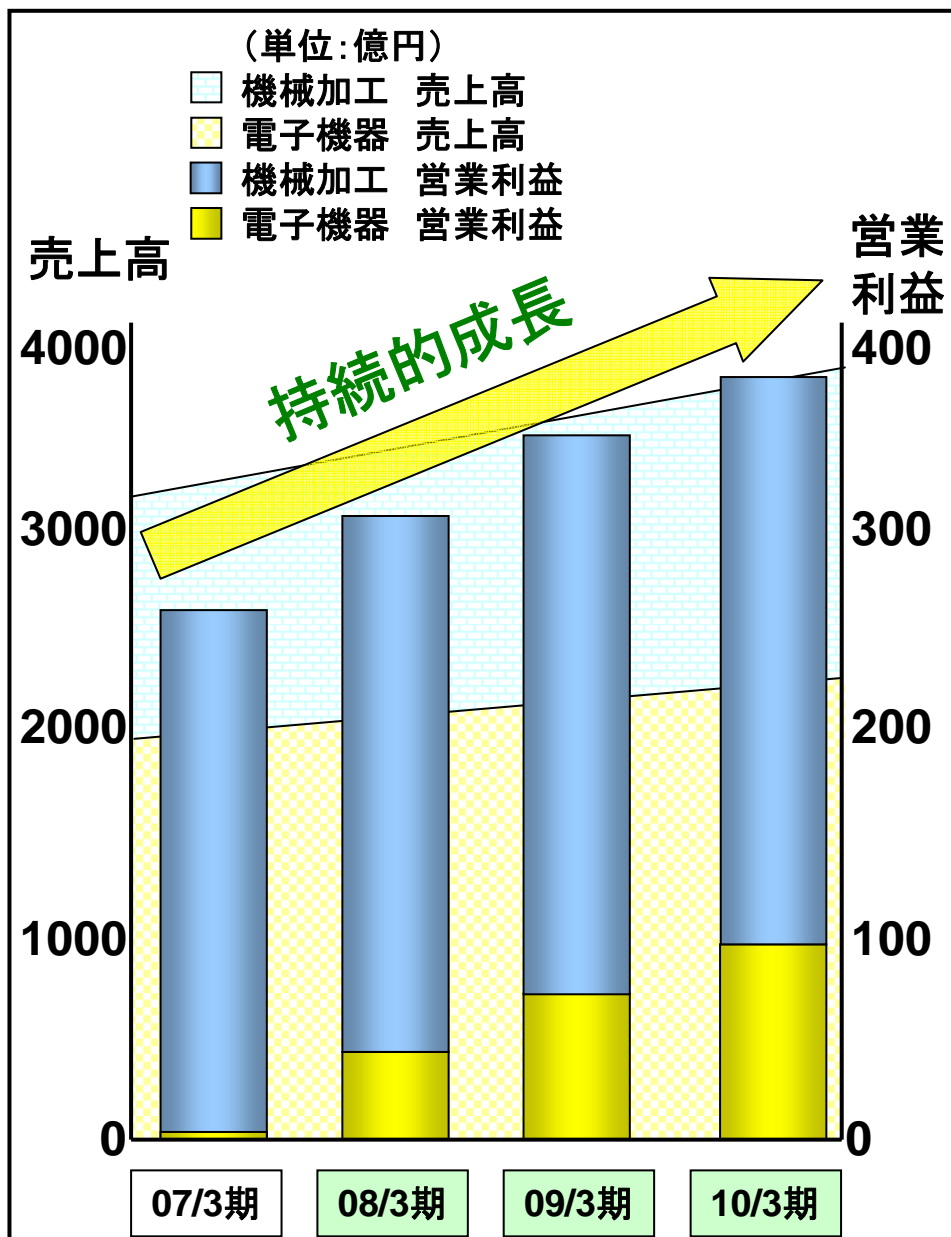
2010.3期

未来へ

未来へ

2012.3期

中期事業計画(2008年3月期～2010年3月期)



グローバル環境: 急激な為替変動
 原材料高騰
 エマージング市場の拡大
 アジア勢の台頭...

機械加工品セグメント

環境: 市場拡大は継続しているが、更なる売上拡大のためには新製品による市場開拓が必要。

戦略: 現在のシェア、利益率を維持しながら、新製品や生産技術改革(生産能力、コストダウン)により、更に売上を拡大。

電子機器セグメント

環境: 市場は拡大期だが、ライティングデバイスのように単価下落が激しい製品もある。

戦略: 全事業黒字化、体質改革により利益率5%目標。新製品の開発強化により事業拡大。ファンモーターが事業拡大の核となる。

既存製品市場の拡大に加え、イノベーションによる新製品、新市場開拓で更なる拡大を狙う

将来に向けての取り組み

『新しいミネベアを作り上げていく』

中期事業計画 (前進 ⇒ 進歩 ⇒ 飛躍)

2008年3月期(前進:事業拡大、利益増大)

《業績回復を磐石なものに》

⇒ 電子機器セグメント全事業の完全黒字化

⇒ 為替、原材料等の外部要因変化に負けない体質改革(コストダウン等)

《成長の先駆けとなる事業への注力》

- ・ボールベアリング事業
- ・航空機用部品事業
- ・光学系デバイス事業
- ・計測機器事業

2009年3月期(進歩:富の創出、技術の進化)

2010年3月期(飛躍:更なる拡大、利益最大化)

将来に向けての取り組み

『新しいミネベアを作り上げていく』

「将来の成長基盤作り」

「ものづくりで勝てる会社」「技術で勝てる会社」を目指して
変化の風を吹かせる

→組織の活性化と技術革新への取り組み

イノベーション

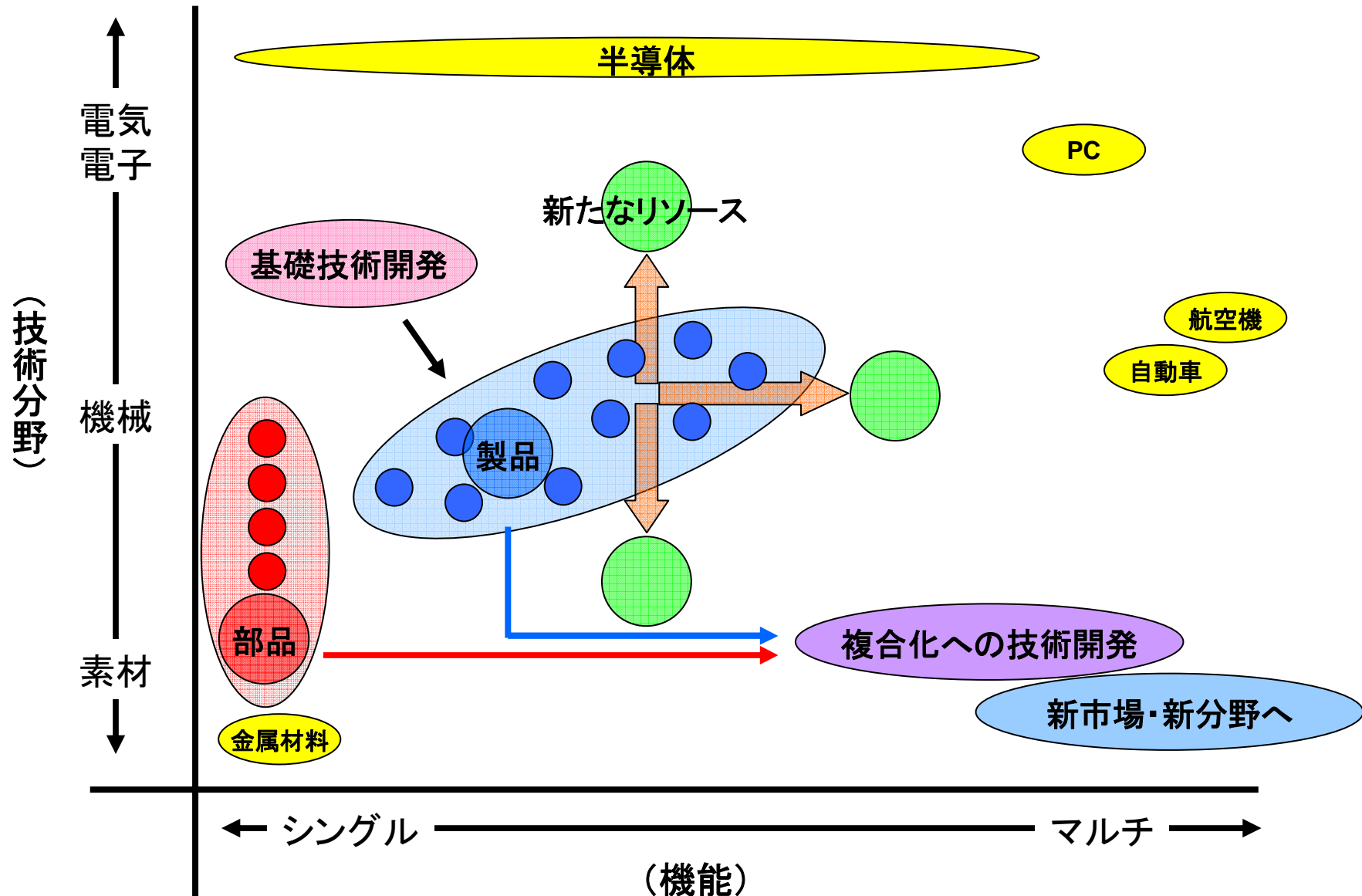
新製品の
導入

新市場の
開拓

生産技術
の革新

製品の複合化・技術の複合化で次のステージへ
モジュール化した製品の取り込み

製品・技術の複合化



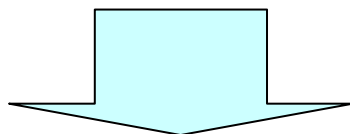
新製品の導入⇒複合化製品

HMSM: Heat Management System Module

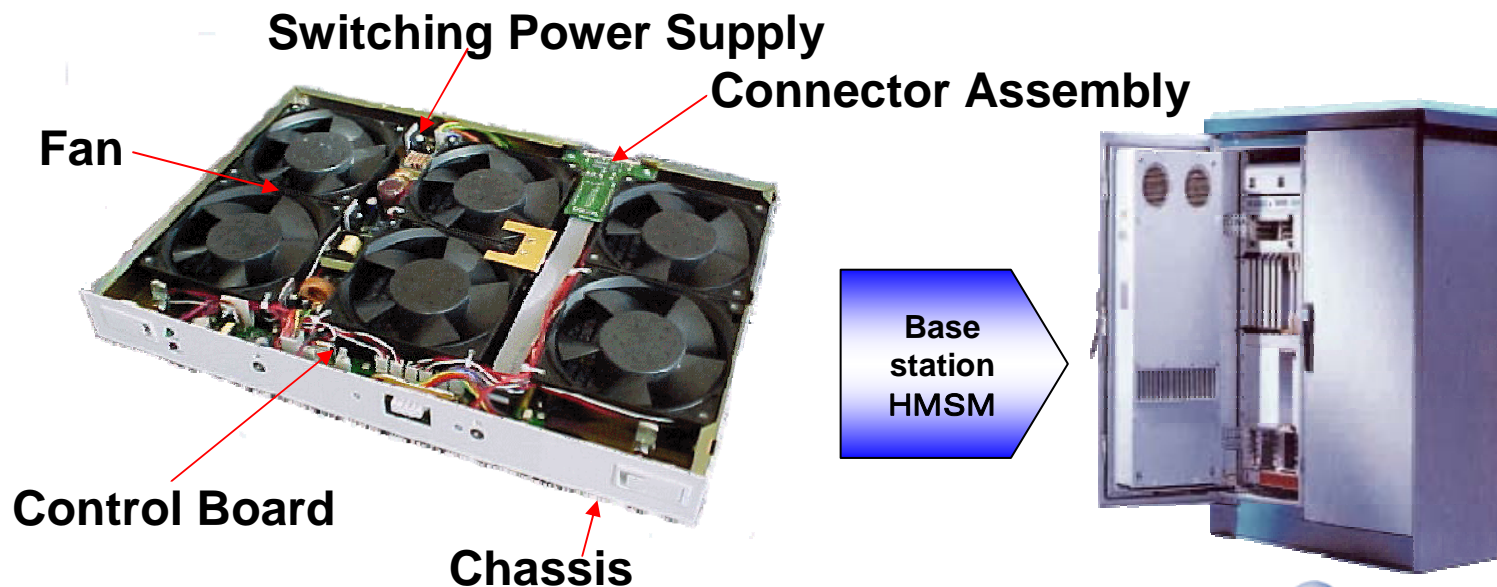
(データ通信・データ処理機器用冷却システム)

＝「ファンモーター」＋「メカ部品」＋「電子回路」＋「ソフトウェア」

モジュール化による進化



拡大するデータ通信・データ処理機器市場で新ビジネス展開
HMSM事業としてスタート予定



新市場の開拓

自動車市場へ

- ・計測機器 ⇒ 乗員検知センサー⇒第二世代へ
センサーとして次のアプリケーションへ
- ・DCモーター ⇒ 新開発の高トルクモーターで車載用の開発
- ・レゾルバー ⇒ 広範囲な角度センサーとしての応用
ステアリングのトルクセンサー及び角度センサー

医療機器・健康器具市場へ

- ・計測機器 ⇒ 薬液用ポンプ等のセンサーとして
健康器具の広まりで荷重センサーの応用範囲拡大
- ・ステッピング
モーター ⇒ 医療機器用分析器への使用

通信機器市場へ

- ・ファンモーター ⇒ ボックスファンからブロアーでの展開
HMSMの様な複合化製品

生産技術の革新

航空機用部品

- ・新分野への進出 ⇒ 大型メカ部品での新製品展開
- ・生産技術の高度化 ⇒ ロッドエンドとファスナーの事業部合体

ボールベアリング

- ・新工場建設 ⇒ 新しいベアリング製造手法の改革
- ・新加工設備の導入 ⇒ ミニチュアベアリング専用機の開発
- ・極小ベアリングの開発 ⇒ 新しい市場展開

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。